

令和6年度第2回春日井市いじめ・不登校対策協議会

1 開催日時

令和7年3月13日（木曜日） 午後3時から午後4時30分

2 開催場所

市役所9階 教育委員会室

3 出席者

委員 願興寺礼子、伊藤治彦、横井隆一、古賀 治、吉田 眞、今井裕次、原田宗敏、酒井はるみ

教育長 兒島 靖

事務局 森本邦博、前原 敦、梶田英男、石川和男、山崎俊介、渡辺えみ、三浦敬一朗

代理出席者 杉浦 誠（登校支援室指導員）、疇地 正人（登校支援室指導員）、一柳真梨

欠席者 山口 力、窪野明子、神戸研人、野見山日向、安藤 透、伊藤 仁

4 議題

- (1) 令和6年度いじめ・不登校対策協議会事業報告
- (2) いじめ・不登校についての状況報告及び意見交換

5 議事内容

- (1) 令和6年度いじめ・不登校対策協議会事業報告

【事務局】 資料に基づき説明

- (2) いじめ・不登校についての状況報告及び意見交換

【願興寺会長】 いじめ不登校匿名連絡サイト（以下スクールサイン）において令和6年度中に330件の投稿があったにも関わらず、対応が145件でいじめ認知が14件となっており、対応が全体の半分となっている理由について教えて欲しい。

【事務局】 330件の中には学校に関係のないものや同じ内容のものがあつ、それらを整理した結果、報告した件数となっている。

【願興寺会長】 子どもたちはシグナルを送っているので、細やかな対応をお願いしたい。不登校対策として、次年度は小学校にも登校支援室を設置するが、登校支援室の今年度の運営と今後の課題について教えて欲しい。

【事務局】 今までは小学校は心の教室の時間増の中で対応していたが、従来の相談機能と不登校対応が重なり、対応に不安を抱える場面があつたため、小学校にも登校支援室を設置することとなった。

登校支援室ではコーディネーターが重要な位置を占めている。中学校では校務主任がコーディネーターを担っており、年2回情報共有会議を開催して

いる。指導員の先生と共に登校支援室の運営について検討している。登校支援室が全中学校に開設されてから毎年開催しているが、コーディネーターの先生方も登校支援室の運営について前向きに考えている。

【杉浦委員】

登校支援室の運営について、令和6年度6月の利用者は15校で204名。2月は251名となっている。内訳として、ほぼ毎日登校出来ている生徒が全体の34%となっており、6月の調査では28%であったため、登校支援室の利用者は増えているが、登校できている生徒も同時に増加していると分かる。

次に情報共有会議の効果について、情報共有会議は小グループの話し合いが中心で、それぞれの学校が困っていることを出し合い、他校の解決策から学ぶ形で行われている。具体的な内容としては、利用開始時間の適切な説明の仕方、目標設定の具体化、支援室での過ごし方の再検討といった支援室運営の柱となる内容を検討する学校が見られた。次に利用者資料のデータ化、ホワイトボードへの在室生徒の予定表示、教職員への緊急連絡のためのチャットの活用といった情報共有に関するものがある。これらにより登校支援室利用者の情報を共有でき、チャットで連絡が可能になったことで沢山の教職員が支援室に関わるようになった。最後に、学習機会の保障として、学習に向けた声掛けを積極的に行った。それにより、登校支援室で学習に力を入れる学校が増え、生徒も学習に取り組む時間が長くなっている。このような取り組みが生徒の教室復帰にも繋がっていると感じる。

【疇地委員】

登校支援室の課題について、令和5年度の報告では、全日制の高校に進学しても継続が難しいこと、進路指導を始めとした担任の支援の重要性について報告した。これらについては、令和6年度は3年生の進路指導をしっかりと行っていたことで、生徒も自分の進路について考えられたと感じる。良い方向へ進む生徒もいる一方で、登校支援室を利用し、元気を取り戻したものの勉強せず、楽しいことだけをして過ごす生徒も増えてきている。次のステップに進むためには進路指導同様、先生方の積極的なコミュニケーションやアドバイスが必要だと感じている。

【願興寺会長】

登校支援室で3年生が受験勉強や進路について考えることで、下級生に対して良い影響は起こっているか。

【疇地委員】

進路については別室で生徒と担任が個別に話すので、下級生が直接触れることは少ない。しかし、登校支援室で3年生が受験勉強する姿を下級生が見ているので、影響は受けていると思われる。

【願興寺会長】

教育支援センターの利用について、状況や登校支援室との連携について教えて欲しい。

【伊藤副会長】

小学生の不登校者数が増えているが、あすなろの全体の相談件数は上がってはいない。最近は小中合わせて相談数は減少傾向にある。しかし、相談件数の中で小学生の相談の占める割合が増えている。今年度は電話での問い合わせが多く、小学校6年生の保護者から2月以降の見学の問い合わせが急増した。保護者がどうしても分からないまま時間が過ぎ、中学校への進学

が迫って来たところで急いで動いているものと思われる。

また、学校ではあすなろ教室の窓口は校務主任が担うことが多い。しかし、ほとんどの校務主任は担任を持っている。4月に1回、あすなろ教室について話をするものの、理解が十分でないままに相談に乗ることもあるため、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを含めた学校関係者全員に、あすなろの利用方法を広めたいと感じる。

【願興寺会長】 いじめ不登校対策部会で開催した、不登校のケース会議やいじめに特化した研修について詳細を教えて欲しい。また、いじめについて、重大事態に関するガイドラインの改訂があったと聞いている。現場でのいじめ対応について教えて欲しい。

【今井委員】 いじめ不登校対策部会で行った研修では9月は不登校の対策及び対応について、また、1月はいじめ対応の研修を実施した。まず、不登校対策、対応の研修では、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの協力を仰ぎ、不登校生徒のアセスメント、支援策の協議について学んだ。そして、支援策の協議として、短時間で具体的な支援策を議論するブリーフミーティングを仮の事例を元に行った。

次にいじめ対応の研修では、いじめの発見から対応までの手順を確認し、各学校の実際の対応方法について情報共有を行った。さらに、いじめの被害を受けた3つのケースについて動画を視聴し、問題点の共有を行った。今後とも改善を加え、継続していく。

【原田委員】 学校現場ではいじめの未然防止、早期発見、適切な対応に努めている。未然防止の取り組みとしては、人間関係づくりのためにソーシャルスキルトレーニングを実施している。また、道徳の授業、特別活動の充実、そして児童の変化に気付けるよう教育相談活動を行っている。次に早期発見の取り組みについては、日常的な観察に加え、アンケートや教育相談を実施し、教職員間での情報共有や連携を密に行っている。いじめの対応については、改訂されたガイドラインを踏まえ、迅速かつ適切な調査・支援を徹底し、被害、加害双方に丁寧に対応している。令和6年度の3学期からはいじめと認知した場合、速やかにいじめ対策委員会を開催し、事実確認と対応を協議し、議事録を作成して文書として残している。そして対応後も双方の関係が改善されるまで対応を継続している。

【願興寺会長】 いじめ不登校対策部会にて開催している研修について、学校での共有方法を教えて欲しい。

【今井委員】 ブリーフミーティング研修は研修を受けていない先生にも共有しやすいよう動画を活用している。複数の学校で研修後に動画を元に再度在籍校で研修を行っている。

【願興寺会長】 いじめや不登校について、件数の増加だけでなく、課題が複雑化している。その中で春日井市において、いじめや不登校に関する相談で深刻な問題はあるか。また深刻な内容となる原因として考えられることは何か。

【吉田委員】

相談件数は、不登校となったら休むという考え方が浸透してきたためか、昨年度と比較して約 50 件減少し、いじめについては令和 5 年度より 7 件増加している。特徴的なものとして、私立の小中学校の保護者からの相談が増えている。私立でも小学校から中学校に進級するときに、環境の変化に対応できない子どもは一定数いる。

いじめの相談については、SNS による誹謗中傷が多い。いじめが原因で登校できないという相談があるが、学校や先生に繋ぐことを提案しても「先生に言うといじめが酷くなる」と子どもに言われ、直接繋ぐことを断る保護者がいる。しかし、直接繋ぐこと以外の対応は難しいため、問題に入り込むことができない場合もある。また、いじめにおいては先生や親は謝罪があれば問題解決と思っているが、被害者の中には、いじめがなくなっても加害者が学校で元気に過ごしているだけで許せないとの思いを抱く子どももいる。被害者が心を落ち着けて過ごせることがいじめ対応の終結になるので、加害者の謝罪についてはもう一度、学校で考えて欲しい。

最後に、いじめ相談が学校に入らないときの理由として、先生を信用できない場合もある。いじめに遭っている子どもは必ず助ける、守るといった姿勢を強く示すことで、相談が増えてくると感じる。

【願興寺会長】

保健室に来室する子どもが抱えている不安について、子どもの気持ちを理解するための研修は行われたか。

【酒井委員】

令和 6 年 7 月の研修会では、臨床心理士、公認心理士、社会福祉士の西川絹恵氏を招き、自殺予防や、自傷行為をする子どもの理解と対応を考えるというテーマで講演を開催した。昭和の時代の価値観は、人間関係を良好にさせるためにコミュニケーションを増やしていたが、現代の若者は人間関係を悪化させないために、コミュニケーションを減らしている。そのため、親しい人と過ごす時間は楽しくなければならぬという発想になり、仲の良い相手には良いことしか話さない傾向にある。一方でネット上の知らない人には本音を話せるといったことも起こっている。また、現代の子どもたちはタイムパフォーマンスを重視し、わからないことがあると人に相談するのではなく、ネットで調べる傾向にある。誰かに聞くことは時間がもったいないという発想が、人に相談しないという行動に繋がっている。

リストカットについて子どもから打ち明けられた際には、自分はこの子に選ばれた存在だと自信を持ち、寄り添うことが大切であり、誰かに話すという行動こそが回復に向かう第一歩だと学んだ。

また、令和 4 年度には、特定非営利法人 ASTA の松岡成子氏より LGBTQ+ への理解と対応についての講演を受けた。養護教諭は学校において、子どもたちの体、心、命を守る最前線に立っている。児童生徒の健康問題が多様化しており、経験の浅い養護教諭が増えている中で、これらの研修は子どもをより深く理解し、適切な対応を学び、養護教諭としての力量向上に繋がっていると感ずる。

【願興寺会長】 次に家庭教育コーディネーターの今年度の取り組みや、実際に利用した子どもや保護者の声があったら教えてほしい。

【横井委員】 ホームフレンド活動では、家庭教育コーディネーターが、教員を目指す大学生のボランティアと共に不登校の児童生徒宅を訪問し、子どもたちの話し相手になったり、共に遊んだりする活動を行っている。不登校の児童生徒は外出する機会が少なく、人と接することがあまりないため、人と関わる場面をつくることで社会的な経験を積み、自我の発達を促すことができるよう活動している。

今年度は4月に10人の不登校児童生徒の家庭訪問からスタートし、現時点で計14人の児童生徒宅に家庭訪問を行った。多くのケースで月に1・2回、1時間程度、ホームフレンドの学生と活動を行った。強く登校を促すことはないため大きな変化がない子どもが多いが、今年度は3人ほど登校を再開することができた。しかし、中には上手く関係を築くことが出来なかった事例もあった。

不登校と言っても子ども一人一人が抱えている問題は多種多様である。家庭教育コーディネーターとして、子どもたちの支援には学校を含めた関係機関との連携が重要である。

【願興寺会長】 警察に寄せられた相談のうち、学校に関わるものについて内容と対応、また市内の状況について教えて欲しい。

【一柳委員】 警察への相談としては、学校内の生徒間における窃盗や暴行、SNSトラブル、個人情報の流出、悪口といったものがある。窃盗や暴行といった犯罪にあたるものについては、保護者や被害を受けた子どもの意思を確認し、事件化を希望した場合は触法事件や少年事件として対応する。また、事案が悪質だった場合は、保護者や子どもの希望がなくても警察から事件化を提案することもある。

市内の状況については、令和6年中の刑法犯少年、特別法犯少年で不良行為少年は、令和5年から全て増加している。少年事件としては窃盗犯、粗暴犯、軽犯罪法違反が増えている。窃盗犯は万引きや自転車盗が多い。粗暴犯は学校外ではあるが、非行集団内の揉め事で傷害事件になることが多い。軽犯罪法違反については例年より増えており、肝試しを目的に立ち入り禁止区域に5～6人で入るため、自ずと数が多くなっている。不良行為少年については深夜徘徊が最も多い。喫煙も増えており、小学生が注意されることもあった。春日井市内の非行、不良少年の動きが全体的に活発になっている。警察としては非行防止、犯罪抑止に署をあげて取り組んでいる。

【願興寺会長】 保護者の立場から、近年の学校のいじめや不登校の対応、そして市や学校での取り組みについて、意見や感想はあるか。

【古賀委員】 本日の会議に参加することで、春日井市のいじめや不登校の取り組みについて理解することができた。その取り組みを保護者にも周知して欲しい。

いじめの加害者はいたずらのつもりでも、被害者にとっては深い心の傷に

なることがある。そのため、いたずらのつもりでも相手を傷つけ、心に深い傷を負わせることで一生を左右することもあると、子どもたちに訴えていくことが大切だと感じる。

【願興寺会長】 文部科学省が挙げる COCOLO プランにあるように、誰一人取り残されない学びの保障が叫ばれている。いじめ重大事態に関してもガイドラインが改訂されるなど、子どもの人権について学校だけでなく、大人一人一人が真剣に考えて行く必要がある。今後も学校に関わる関係者が子どもについて意見を交え、子どもを真ん中に据えて、よりよい未来を考えて行きたい。

上記のとおり、令和6年度第2回春日井市いじめ・不登校対策協議会の経過及びその結果を明確にするために、この議事録を作成し、会長及び会長が指名する者が署名する。

令和7年 5月 28日

春日井市いじめ・不登校対策協議会

会長 願興寺 礼子

副会長 伊藤 治彦